

奈良県立橿原高校 普通科・3年生  
松田昇太郎

奈良県立商業高校 会計科・3年生  
北村桃佳



岩手県・私立専修大学北上高校 普通科・3年生  
六串海遥

VIEW next 編集部 統括責任者  
柏木 崇

# 私たちにとって「テスト」とは

テストが生徒と教師の「学びのコミュニケーションツール」であるならば、定期考査の廃止と単元テストの実施は、そのコミュニケーションのあり方によつてどのような影響を与えるのだろうか。単元ごとの評価に移行している3校の生徒が、定期考査のなかった高校生活を振り返りながら、卒業年次生として思う「テストの意義」について、VIEWnext 編集部統括責任者の柏木崇と語り合った。

## 最初は戸惑った単元テスト。次第に学習習慣が身についてきた

**柏木** 皆さんは、定期考査を廃止して単元テストを実施している高校でこれまで学んできました。3人とも中学校時代は定期考査があったそうですが、高校で定期考査がなくなったことで、日々の学習への取り組み方は変わりましたか。

**北村** 高校に入学して最初のうちは、単元ごとにテストが行われることに戸惑いました。でも中学校の時のように、定期考査の直前に一夜漬けで勉強するよりも、単元ごとに理解度を確認した方が、授業で学んだことが自分の力になっていると、次第に感じるようになりました。今は単元テストに合わせて毎日計画的に勉強しています。

**松田** 単元テストになったことで、テストの回数自体は多くなって、最初のうちは負担に感じたこともありました。でも徐々に慣れてきて、中学生の時よりも家庭学習の時間が少しずつ増えていきました。

**六串** 部活動で遅く帰宅した翌日に単元テストがあ

った時は、大変だと感じたこともありましたが、でも、単元テストは定期考査に比べて出題範囲が広くないことに着目し、隙間時間を有効活用しようと考えました。スマートフォンなどを使ってこまめに勉強したところ、単元テストは苦ではなくなりました。

**柏木** 単元テストのよいところを教えてください。

**松田** テストの実施回数が多いので、1回のテストの結果が悪くても、2回目、3回目のテストで挽回ができるからです。

**六串** 私の高校では、同じ単元の単元テストに再チャレンジすることがあります(P.457参照)。例えば、単元テストの前日まで部活動に時間が取られてしまっても、その単元テストで納得のいく成績が取れなくても、再チャレンジして成績を更新することが出来ます。部活動も勉強も頑張りたい自分には、とても合っていると思います。

**北村** 定期考査のように、短期間にいろいろな教科科目を勉強しなくてよいところが、自分は勉強しやすくいいなと思っています。

**柏木** 反対に、単元テストについて「ここはちょっと

と……」と感じるところはありますか。

**松田** 単元テストに合わせた勉強の習慣がなかなかつかなくて戸惑った人はいます。先生にアドバイスをもらったり、友人と一緒に勉強したりして、早く慣れることが大事なのかなと思います。

**六串** 単元テストが1日に複数回ある時は、定期考査と同じように大変だと感じることもあります。

**柏木** 定期考査の方がよかった点はありませんか。

**六串** 中学生の時に、「定期考査で〇位以上だったらお小遣いをちょうだい」と母にお願いしたり、仲のよいクラスメートと競い合ったりしたのは楽しい思い出です。

**北村** 単元テストは自分との勝負で、定期考査は点数や順位を人と比べやすいテストだと思います。

### テストは

### 夢や進路の実現を支えてくれるもの

**柏木** 3人とも学習習慣が身につけているようですが、それは単元テストのおかげですか。

**六串** 単元テストよりも、模擬試験が終わった後などに行われる先生との面談の方が影響は大きいです。個人帳票の具体的な数字を見ながら、「化学のこの単元は応用力が身につけていないね」などと先生に教えてもらうことで苦手な単元に気づき、該当の単元テストに再チャレンジして、苦手が克服できたかを確認しようという気持ちになります。

**松田** 先生の声かけは大きいと僕も思います。高校生になって少しずつ家庭学習の時間が増えていったのは、先生が折に触れて「疲れていても、10分、20

分でもいいから毎日勉強することが大事だよ」と声をかけ続けてくれたからだと思います。

**北村** みんなで勉強する環境があることも大事だと思います。私の学校では放課後、友人と協力しながら簿記の勉強に取り組める環境を先生たちがつくってくれています。私の場合、勉強のやる気の一番の源は公認会計士になりたいという夢で、そのやる気を、友人と励まし合いながら維持しています。

**柏木** 定期考査が単元テストになればよいというわけではなく、勉強のやる気を高めるために大事なものはまた別にありそうですね。では、皆さんにとってテストとはどういう存在なのでしょう。

**北村** 私にとってテストは、夢の実現を支えてくれるものです。テストを受けた時点での自分の力を把握し、夢に近づいていることを実感できるようなテストであってほしいです。

**松田** 僕も単元テストや模擬試験で今の自分の力を知ることができています。でも、大学入試本番に向けて、不安も少しずつ大きくなってきています。

**六串** 大学入試のことは、私も不安です。だからこそ、学校のテストが自分の不安を少しでも解消してくれるものであったらいいと思います。「学校のテストでよい成績を取れたのだから、本番のテストもきっと大丈夫」と、自分の実力に自信を持って入試本番に臨むことができるのではないかと思います。

**柏木** 希望進路を実現するためのテストがあつて、その一番大切なテストに対する不安を、先生や友人とのかかわり、そして学校で受ける様々なテストを通して、少しでも軽減できたらいいですね。皆さん、進路実現に向けて、引き続き勉強、頑張ってください！

### 本特集を振り返って

### 定期考査の「存続」「廃止」の結論ありきではない議論を

本特集では、「定期考査は必要か」「その答えは、どのような点を考えれば出るのか」といった問いを立て、定期考査の見直しに関するデータや事例、テスト研究の専門家へのインタビュー、そして高校生との対話を通じて考えてまいりました。

後者の問いについては、「定期考査は何のために実施するのか」「その目的を果たすものになっているか」といった、自校の定期考査の目的の確認と現状の把握が答えの1つだと考えます。3つの事例でも、自校で育てたい生徒像や育成を目指す資質・能力の共通認識を図るところから議論は出発し、その目的を果たすための手段の1つとして、定期考査の廃止という結論に至っていました。自校の定期考査の目的や現状を考えることで出る、前者の問い「定期考査は必要か」の答えは、スクール・ポリシーや学校を取り巻く環境（教員数・生徒数、生徒の気質や学力の状況等）によって異なってくる、すなわち、「存続」「廃止」どちらの結論もあり得ると考えます。だからこそ、結論ありきではない、学習評価の本質に立ち返った議論を、校内で実施していただきたいと思っています。



VIEWnext 編集部  
統括責任者  
**柏木 崇**